

業界団体総会

鉄道、道路で実績

SEC機会協会



伊藤会長

SECコンクリート機械協会(伊藤祐二会長)は11日、都内のホテルで通常総会を開いた。

開会のあいさつにたった伊藤会長は「地震や台風など大きな災害が起こりやすいわが国では、国土強靱化のためのインフラ構築とその維持更新が非常に重要だ。また、東京オリンピック・パラリンピックやリニア中央新幹線、都内の再開発などが目白押しで、建設基礎資材としてのコンクリートにSEC技術が適用され、良質な構造物が多く建設されることを期待している」と語った。

SECコンクリートはNATMトンネルの吹付けコンクリートを中心に採用されており、鉄道工事で210件、道路工事で282件の採用実績がある。

伊藤会長はSECコンクリートの採用状況を説明したうえで、「SECコンクリートが活躍する場面が増えている。SEC技術でビジネスチャンスをより一層広げていけるように今年度も取り組んでいきたい」と述べた。

総会では、特別講演として徳島大学大学院の橋本親典教授が『流動性を高めた現場打ちコンクリートの活用に関するガイドライン』の制定の経緯および考え方について」の題で講演した。